

■ 国内大学初！？のエコな取組み。トウモロコシ由来の原料で SDGs 推進 ■

キャンパス内ごみ袋をすべて減プラ製品に

～ 年間 30 万枚で 2 トン分のプラスチック削減 ～

関西大学では 2022 年 4 月から、SDGs 推進の一環として、全キャンパス構内のごみ袋をすべて減プラ製品に切り替えます。導入するのは、トウモロコシ由来の新原料を使った「環境にやさしいエコごみ袋」で、年間 30 万枚を使用すると、約 2.5 トン分の廃プラ削減が実現できます。

本件の
ポイント

- ・全キャンパス構内のごみ袋を「環境にやさしいエコ仕様」(減プラ製品)に切り替え
- ・プラスチックの代替が可能な、トウモロコシ由来のバイオマス原料を使用
- ・年間 30 万枚使用すると、約 2.5 トン分の廃プラ削減が可能

本学では SDGs 推進をはじめ、気候非常事態宣言(2021 年 11 月 26 日)を発出するなど、環境保全に向けた様々な取組みを展開しています。学内食堂における割り箸利用や食品ロスの削減、弁当容器の再生容器使用の推進、ウォーターサーバーの設置(マイボトルの活用推奨)などもその一例です。今回の取組みは、ごみ袋をエコ仕様に切り替えるというシンプルな発想ですが、環境問題への貢献という側面に加え、日常から社会全体のごみ問題を考える環境をつくることで学生の SDGs 意識の醸成を図るという教育的側面を兼ね備えます。

■ トウモロコシ由来のバイオマス原料で、年間約 2.5 トン分のプラスチックごみを削減

採用するのは、**プラスチックの代替が可能となるコーンスターチ(トウモロコシ)**を使用した熱可塑性原料から成るごみ袋です(開発:西野金陵株式会社)。市販のごみ袋の大半は、一部に植物由来原料を使用していたとしても、**100%プラスチック製品であるのに対し、同ごみ袋は製品の 25%が非プラスチック原料から成る点が最大の特長**です。そのため、**バイオマスゆえの CO₂ 排出量への配慮のみならず、プラスチックの排出量削減が可能**となります。開発した西野金陵株式会社によると、「こうした製品が大学キャンパス内に全学的に導入されたケースはない」とのことで、国内大学として先駆的事例となります。

※2020 年に教育後援会(在学生の保護者組織)主導の下、実験的に学生に配付した実績あり。当時はコロナ禍での生活困窮者への食糧支援の際にあわせて配付するというものだったが、学内における一層の SDGs 機運上昇につながった。

具体的に期待できる効果について、例えば学内で使用のごみ袋のうち最も使用率の高い 45L サイズの場合、1 枚当たりの総重量は 29.6g、うち非プラスチック原料の重量は 7.4g(29.6g×0.25)となり、これがプラスチック削減量となります。年間使用量は約 14 万枚であるため、約 1,036kg の減プラが実現されます。同様に他のサイズ(10L～120L)も計算し合計すると、年間で約 2,577kg(全サイズ総枚数:約 30 万枚)となります。

< 関連リンク >

▼関西大学 気候非常事態宣言 [宣言 PDF] <https://www.kansai-u.ac.jp/energy/CED.pdf>

学内構成員一人ひとりが次の世代に豊かな地球環境を残していくという使命を自覚し、気候変動や環境問題の改善に向けた行動に取り組んでいくという行動姿勢を掲げた宣言文。気候変動による環境変化を背景に、2021 年 11 月 26 日発出。

▼SDGs 推進の取組み (KANDAI for SDGs ウェブサイト) <https://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/>

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当:寺崎、木田、久保

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp